

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 44 号 乙 保	氏 名	久保幸子
審査委員	主 査 近藤和也 副 査 友竹正人 副 査 岩佐 武		

題 目

Differences in Male Climacteric Symptoms and Lifestyle Depending on the Duration of Working among Rotating Night Shift Workers

(交代制勤務年数における男性更年期症状とその背景としての生活習慣)

著 者

Sachiko Kubo, Toshiyuki Yasui, Reiko Okahisa, Yukie Matsuura,
Masahito Tomotake 2020年12月発行 Health Vol.12, pp1598-1609 に発表済

要 旨

交代制勤務は、現代社会において欠かせない就業形態であるが、健康維持が困難であること、様々な健康障害が問題となっている。本研究は、交代制勤務者の勤務年数による男性更年期症状の違い、その背景として生活習慣の違いに着目した研究である。本邦の男性交代制勤務者1891人を対象に、勤務年数とともに食事、睡眠時間、運動習慣、飲酒、喫煙について自記式質問紙を用いて調査し、男性更年期症状は Aging Males' Symptoms (AMS) scaleを用いて評価している。解析は、40歳以上で、AMS17項目全てを回答した636人について行なっている。40年以上の勤務継続者の精神的なAMSスコアは19年以下の勤務継続者に比べて有意に低いこと、性機能スコアにおいても勤務年数による有意差を認めたことが示された。また、生活習慣に関して、交代制勤務年数が40年以上の勤務者では、日勤帯の主食・主菜・副食の揃った食事の頻度が有意に高く、毎日飲酒する者の割合が有意に低いことが示された。以上の結果により、食事バランスを考慮し飲酒を控えるといった生活習慣への配慮は、長期交代制勤務者の男性更年期症状を回避することにつながる可能性があり、保健指導を行う上で有益な情報となる。本研究によって、長期交代性勤務を継続するための保健対策のポイントが明確にされたことの社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判断した。